

令和元年度第1回 里庄町総合教育会議 議事録

- 1 日時** 令和元年9月25日(水)〈開会9時00分、閉会9時25分〉
- 2 場所** 里庄町役場本庁舎2階 第2会議室
- 3 出席者**
- | | |
|--------|----------------------|
| 町長 | 加藤 泰久 |
| 教育長 | 杉本 秀樹 |
| 教育委員 | 宮崎 勇次 (教育長職務代理者) |
| | 定兼 正明 三吉 俊郎 堀 朝子 |
| オブザーバー | 小寺教育委員会事務局長 天野事務局長補佐 |
| 事務局 | 内田副町長 赤木総務課長 安藤総務課主事 |

4 議事にかかる出席者の発言

(1) プログラミング教育について (議事進行：町長)

【加藤町長】

プログラミング教育について、教育委員会から説明をお願いしたい。

【杉本教育長】

時間も限られているので要点のみ簡単に説明させていただく。

まず、プログラミング教育のねらいについて、大まかに言えば、プログラミング的思考を育むということ。これは、単にプログラミングの言葉等を覚えるのではなく、論理的に考えていく力をつけるということである。

次に、プログラミング教育の育成する資質・能力と情報活用能力の関係について、大きく「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つに分けている。

「知識及び技能」では、身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くということ、「思考力、判断力、表現力等」では、プログラミング教育中だけでなく、生活全般で、より意図した活動に近づくかを論理的に考えていく力、「学びに向かう力、人間性等」では、コンピュータの働きを、より良い人生や社会づくりに生かそうとする態度を育てていく。そのために、各教科等での学びをより確実なものとし、具体的に何を使ってどのようにしていくかをこれから天野(オブザーバー)が説明する。

【天野(オブザーバー)】

今年は予算をつけていただき、教材を購入し、小学校に導入している。先ほど教育長が申しあげたとおり、子どもたちの論理的な思考を育てていくが、それが一体どのように役に立っているか、プログラミングで命令したことがどのように世の中に役に立っているかを目に見える動きがないと、自分たちで命令したことがわかにくい。今回は、モーターが

ついている車型の教材を持参した。これはいろいろな使い方ができるが、例えば、付属の赤外線センサーを使って衝突しない車を作ることができる。いろいろと命令を出す、モーターを何回転で動かすか、前進するか後退するか、物との距離が近くなったら自分で止まるために数値をいくりにするか、といった命令を組んでスイッチを入れると動き始める。その自分でプログラミングした動きが、きちんと意図したとおりになるかを、失敗ややり直しをしながら学んでいき、本物の車や自動ドア、電灯のセンサーなど、身の回りにあるものがプログラミングによって便利になっていることを実感して理解できるようなものになっている。

【加藤町長】

説明があったことについて各委員から意見等があればお願いしたい。

【三吉委員】

その教材はある程度完成しており、命令通りに動くものだと思うが、失敗をするというのは具体的にどういうことか。

【天野（オブザーバー）】

この教材は、当然ながら命令されたとおりに動く。命令はソフトウェアを利用し、言葉を打ち込んでいくものではなく、「モーター回りなさい」や「止まりなさい」といったブロック型の命令を選んで組み合わせる形になっている。その組み合わせを行うのが大人でも難しい。ここで論理的な思考をさせる。

【杉本教育長】

以前に教材の展示会に出席したことがあるが、本当にたくさんの種類の教材がある。その中で、できるだけ安価でいろいろなことができる物がよいと思い、最終的に今回の教材に決めた。また、教科の中でプログラミングの勉強を主にするのは、算数、理科、総合的な学習となる。

【堀委員】

教材の金額はいくらか。

【天野（オブザーバー）】

教材1セット当たり定価が16,000円である。この1セットで算数でも理科でもすべて対応できるものになっている。

【加藤町長】

教材の選択は、各市町で異なっているのか。

【天野（オブザーバー）】

異なっている。

(2) コミュニティースクールについて（議事進行：町長）

【加藤町長】

コミュニティースクールについて、教育委員会から説明をお願いしたい。

【杉本教育長】

コミュニティースクール（学校運営協議会）の制度については随分前からあるが、里庄町はコンパクトな町なので、学校関係で地域に何か協力を依頼する際は、直接個人又は団体に声かけをしたほうが最も効果的に人が集まるということもあり、今まではそうしてきた。大きな町になると、人材バンクのようなものを作り、それに登録していただき、登録者に協力を依頼する方法があるが、弱点として、学校には適さない人が選ばれ、トラブルになってしまうことがある。

一方で、今後より一層地域の力を学校に貸していただく、あるいは学校に助力することで地域づくりに還元していく、そして教職員の働き方改革にもつながっていく、子どもたちも地域の大人を知れば、地域を愛する心が生まれ、将来地元の企業に就職をし、定住するなどの効果がある方法をとっていきたい。また、学校に入っていたいただくのは、基本的にボランティアで入っていただきたいと大まかに考えている。

学校での作業はいっぱいあるが、例えば、学校の勉強の中に入っていたいたり、草刈りや剪定をしていただいたり、子どもたちの見守り等のほか、講演会の際の子育てボランティアなど、助力いただけるとありがたいことがたくさんある。そういったことを是非近いうちに、1～2年のうちに実行したい。すでに、里庄西小学校では、去年からそういった話が出ており、今年は準備段階として、地域の方にお世話になる方向で動いていきたい。

最後に、この取り組みは、多くの市町で形骸化している。形だけの組織はできたが、役に立っていないところが多く存在しているので、そうならないように取り組んでいきたい。

【加藤町長】

説明があったことについて各委員から意見等があればお願いしたい。

【定兼委員】

今ある学校協議会との兼ね合いはどうなるのか。学校長が説明する学校運営の基本方針に対して、学校運営協議会が承認することの強制力はどれほどのものなのか。教職員の任用に対して意見を述べることは、学校運営協議会のメンバーによっては、悪く言うと口出しができる状態になってしまうので、そのあたりが心配であり、リスクがあるのではないかと思う。

また、子どもの学校教育については、第一義的に支えないといけないのは、保護者であると思う。保護者が一緒に活動せず、学校組織だけが動くのは返って本末転倒である気がする。学校、PTA、運営協議会が三位一体となって機能すれば一番いいと思う。

【加藤町長】

民間でもそれぞれの職域で働き方改革がなされているが、学校現場でも業務見直しが必要になったときに、まず子どもたちにその影響がいかないようにその体制を取っていかないといけないと思う。

【杉本教育長】

まず、学校長の説明に対する学校運営協議会の承認については、賛成・反対の決をとるのではなく、ここをこうしたらもっと良いのでは、といった建設的な意見を聞かせていただき、内容によって学校長が付け足していく、といったものである。教職員の任用についても、原理原則として、出された意見を尊重はするが、必ずそれに従わなければならないという強制力はないとされている。

そのため、学校運営協議会で決まったことが即反映されるとは限らないので、学校を悪いように思い通りにできるものというものではない。

【三吉委員】

基本的には定兼委員と同じ考えである。数年前に学校が落ち着かなかったときに、このようなコミュニティースクールがあれば、子どもたちの受け皿になっていたのではないかと思う。個人では中々動けないので、協議会のような団体があれば動きやすいのかなと思う。

【加藤町長】

その他、教育行政全般について、意見等はあるか。

→全委員特に無し。

本日の議事を終了する。